

日本ASEAN友好協力50周年記念国際シンポジウム レセプションでの林外務大臣の挨拶

ご来賓の皆様、日本ASEAN友好協力50周年を記念するレセプションでご挨拶をする機会を頂き光栄に存じます。

「輝ける友情、輝ける機会」、50周年を象徴するキャッチフレーズです。日本とASEANとの関係を、他の国とASEANとの関係と比べたとき、際だった特徴は、「心と心」のふれ合う相互信頼関係にあります。私の出会った多くのASEANの方々から、こういった言葉をいただきました。

これは、50年、1世代を超え2世代に近づく長きに亘り、幅広い国民間の交流を通じ、互いを尊重し、学び合い、困難にあるときも手を取り合い、地域の平和と安定、繁栄のために取り組んできた賜です。この輝くような大切な友情を礎に、さらに新たな時代に向けて踏み出す、輝くような貴重な機会、これが本年の持つ大きな意味であります。

今日、時代の転換期を迎え、国家が再び激しく競争を繰り広げ、国際社会は、協調と分断が複雑に絡み合う時代に入っています。ASEANは、半世紀以上も前に東南アジア5か国により設立され、加盟国を拡大しつつ連帯による域内の平和と発展に取り組んできました。そして、地域の外の国々との協議の枠組みを構築し、対話と協力の推進に貢献してきました。

日本は、1973年に世界に先んじてASEANとの対話を開始し、以来、ASEANの挑戦と努力に心から共鳴し、日本のアジア外交の中心にASEANを据えてきました。そしてその後一貫してASEAN中心性・一体性を支持するとともに、ODAと民間投資を車の両輪としてASEANに常に寄り添って支援してきました。

本日、50周年を記念するシンポジウムでは、日本とASEANの参加者の間で、これからの私たちの協力のあるべき姿につき、活発に議論いただいたと伺っています。本日晒された貴重なご意見も踏まえて、今後の日ASEAN関係の更なる強化につなげていきたいと思っております。

本日のシンポジウムの主催者である国際交流基金は、このような知的交流のほか、日本ASEAN友好協力40周年の機会に発表された「文化のWA」プロジェクトの下、芸術・文化交流や日本語教育支援を実施してきました。日ASEAN間の交流を深化させ、次世代につなげていくために、このプロジェクトの後継となるような文化・人的交流の取組を今後も推進していきます。

日本とASEANは、本年12月に東京で50周年を記念し、特別首脳会議を開催します。「心と心」の相互信頼と尊重に基づき、共に持続可能な発展を実現し、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を構築するビジョンを示し、互いの未来のための新たな一歩としたいと思います。

本日ご臨席の皆様にも、引き続きご支援をいただければ幸いです。
御清聴ありがとうございました。